



学校だより

令和6年 3月1日
東京都立小平特別支援学校
校長 阿部 智子

肢体不自由教育部門 〒187-0035 小平市小川西町 2-33-1 TEL 042-342-1671
病弱教育部門・武蔵分教室 〒187-0031 小平市小川東町 4-1-1 国立精神・神経医療研究センター病院内
TEL 042-344-4537

「2月の雪が、3月の桜に変わるとき…巣立ちのとき」

2月最後の休日は雨まじりの雪でした。膨らみかけていた桜のつぼみが、またキュッと固くなっています。まさに三寒四温（さんかんしおん…寒さと温かさが繰り返されること）で、2月から3月の寒暖差こそが、桜の花を強く美しくさせてくれます。三月下旬には、空に伸びる枝いっぱい、桜色の花びらが満開になります。

今年一年も子供たちは笑顔で頑張ってくれました。見守ってくださっていた皆様に感謝申し上げるとともに、子供たちを大いにほめたいと思います。これまでの成長を慶び、巣立ちに寂しさを覚えながらも、教職員一同で、卒業式・修了式に向けて取り組んでまいります。

【卒業証書を授与するということ】

卒業式、修了式の季節となりました。コロナ禍を経てもなお、感染症のリスク対応を行いながらの儀式的行事となります。今年度も来賓の皆様をコロナ前のようにお呼びすることは控えさせていただき申し訳ありません。今年度の卒業式では代表生徒だけではなく在校生が参加して、卒業生の「門出の言葉」を在校生が受け止め、「送る言葉」をしっかりと卒業生に伝えられる場面を大切にさせていただきます。言葉を大切に育ててきた「チーム小平」だからこそ、子供同士の言葉の力を育むための準備に力を入れています。どの学部も卒業学年の教職員にとっては思いが強く、最後の授業として、笑顔あふれるものになりたいと考えています。御理解のほどお願いいたします。

小学部6年生、中学部3年生、高等部3年生は卒業式に向けた練習が始まりました。卒業証書は全課程修了の証明書です。証書の様式や内容は教育委員会が決めていて氏名と生年月日が明記されています。この発行に当たっては永年保存と定められている卒業証書授与台帳が基となり、大切に金庫で保管されています。卒業証書は証明書であるため敬称（～様、～殿、～君、～さん）は付記されません。一方で表彰状や賞状等には敬称が付きまします。証書と賞状は大きく異なるものなのです。卒業証書には開校以来の証書番号が左上に入り、その上には割印が押されています。学校名と校長名は、校長が毛筆で記入し、公印が押された一枚一枚が、大切な証明書となります。卒業証書の作成には、経営企画室の担当が入念な準備をしてくれていることは、なかなか表に出てくることはありませんが、卒業式まで半年ほどかけて作成されるものです。

卒業証書授与時には、お祝いに駆け付けてくださったお客様である保護者の皆様や来賓等の前で校長が卒業証書を読み上げ、（身内の）卒業生に授け（授与し）ます。贈呈ではなく授与ですから、（身内の）卒業生の氏名には敬称を付けず、決して呼び捨てではなく丁寧に卒業生の氏名を、全集中で心を込めて読み上げたいと思います。

学部を巣立つ前の最後の学習に臨む、卒業生の自分なりの返答は、単なる点呼ではありません。卒業生の「思考・判断・表現」を我々教職員が受け止める、卒業生の姿と言葉が会場にいる皆の心に響く場面となります。大きな拍手で全学業を成就した卒業生をほめていただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

【東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会】

～チーム小平A・Bは、風神リーグ優勝と準優勝～

2月17日（土）に行われた今年度の「東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会」は、コロナ禍を経て有観客となり、会場となった武蔵野の森総合スポーツプラザメインアリーナでは初開催でした。私は今回初めてメインアリーナに入りました。何より天井が高く、大変大きなメインアリーナでした。

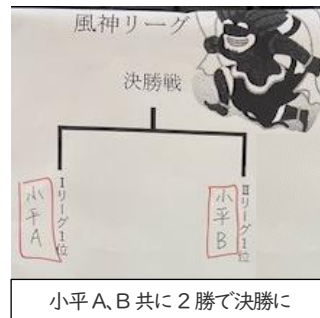
もともと、東京都内の肢体不自由養護学校（現在の特別支援学校）の体育の授業で考案されたハンドサッカーは、当時の生徒と教員で発展させてきた集団スポーツです。



メインアリーナで、円陣を組む小平A、Bチーム

協力し、助け合いができないとチーム力は上がりません。コート上のメンバー構成は、フィールドプレイヤー4名、スペシャルシューター1名、ポイントゲッター1名、ゴールキーパー1名の4つのポジションですが、7名の選手がそれぞれの運動機能に応じて、集中して取り組むスポーツです。昨年度は交流試合でしたが、今年度は東京都肢体不自由特別支援学校が顔を合わせて戦える大会となり、小平特別支援学校は2チーム、エントリーしました。

子供たちは、校内で見知った関係者との部活動の体験のみならず、大きな会場で他校の様子を知り、たくさんの観客がいる中で試合をするという緊張感、臨場感を体験することとなりました。私は、子供たちの表情がどのように変わって、どのようにチーム小平としての力を発揮してくれるのかを見て応援していましたが、風神リーグ決勝戦がIリーグ1位の小平AとIIリーグ1位の小平Bとの戦いとなり、校長としては全員の活躍を祈るしかなく、コートのをぐるぐる回っておりました。保護者の皆様には送迎などの御協力と、たくさんの声援をいただきました。ありがとうございました。



【2月16日(金) 公開研究会 に御協力いただいた皆様、お越しいただいた皆様に感謝】

「深い学びにつながる授業づくり」～学習指導要領に基づくねらいを焦点化した児童・生徒主体の授業づくり～



を研究テーマに、各部門の特色に応じた研究について公開研究会で成果を発表しました。北は青森県、南は沖縄県から、東京都の北多摩地区にある小平特別支援学校にお越しいただき、一日対応している中で、我々教職員一同、日々の授業づくりに真摯に取り組むことの重要性を新たにいたしました。この2年間、肢体不自由教育部門では、学習指導要領に基づき作成した年間指導計画（小平スタンダード【国語】）を基に「ねらいを焦点化した授業づくり」に取り組み、国語の单元ごとに児童・生徒にどのような力を身に付けさせるかを学習グループで検討し、実践、授業改善を行ってきました。

また、病弱教育部門では、入院している児童・生徒の実態に合わせて「多職種連携を生かした授業づくり」と「子供のSafetyを満たす授業づくり」について研究を行ってきました。当日は、参観者に健康チェックと感染症対策の協力をお願いし、午前中に肢体不自由教育部門の授業公開、訪問教育及び病弱教育部門はアリーナ(体育館)内のブースで実践紹介を行いました。参加者の皆様には予想以上に高い関心をもって御質問もいただきました。午後は、講師の下山直人先生と副島賢和先生の御講演、その後、本校教員が参加してのシンポジウムで、新たに御提言をいただきました。様々な状況にある児童・生徒の深い学びとは何か、「言葉にこだわる」授業づくりについて我々教職員の研修を深めさせていただきました。来校者の多い中、研修会での学びのために、児童・生徒が授業でしっかりと応えてくれていました。どうもありがとう。



今後も都内外の特別支援学校等、外部からの研究会参観者に本校の教育実践を発信していくとともに、これからの小平特別支援学校の教育活動のために教職員の学びを深められるよう努力を続けてまいります。御協力いただきました皆様、お越しいただきました皆様に感謝申し上げます。

【4月8日始業式・4月9日入学式に向けて】



2月22日、高等部入学許可予定者発表、保護者説明会を開催しました。また同日午後、小学部新入生一日入学も行われ、3月を駆け抜け、すでに令和6年度に向けて動き出しているのだと感じました。高等部の入学許可予定者発表は、休み時間に自分の受験番号と張り出された番号を確認して記念撮影をしている姿も見られました。担任や、面接練習で関わった教員からお祝いの言葉をもらい笑顔が見られました。3月の卒業式の練習やまとめて忙しく、まだ4月以降のことには、実感はわからないかもしれませんが、学校でも少しずつ、高校生になる心と体の準備を進めていきたいと思います。新小1の皆さんは見慣れぬ教員に囲まれて、まだまだこれからという様子でしたが、新しい生活に向けてのつぼみを大きく膨らませて登校してくる新1年生の入学式も、とても楽しみです。別れと出会いを繰り返し成長していく瞬間を大切にしたいと思います。今年度も1年間ありがとうございました。

校長 阿部 智子